

(一財) 北海道開発協会

旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部との連携協定の締結

一般財団法人北海道開発協会は、10月14日に旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部との間で包括連携協定を締結しました。

札幌市内で行われた締結式では、当協会の町野和夫会長と三上隆学長とが協定書に署名をしたあと、この様子を見守っていた双方の関係者も加わって、記念撮影が行われました。

今回の締結のきっかけは、当協会の開発調査総合研究所が行う「北海道における地域コミュニティに関する調査研究」という研究です。この研究のため、四人の大学研究者の方々に委員となっただき、地域コミュニティ研究会がつくられたのですが、この研究会がヒアリングを続ける中で、旭川市立大学の大野剛志教授との情報交換を行う機会がありました。その後、大野教授は、旭川市において、大学と市の共催によるこれからの町内会の姿を考えるシンポジウムの企画を担当され、そのご提案で地域コミュニティ研究会の委員のうち三人が登壇しました（その模様は、本誌8月号及び9月号に収録。当協会のホームページにも掲載されています）。

このようにして交流を続ける中で、連携協定締結の話が持ちあがるに至ったのです。

協定に基づく具体的な連携の中身はこれから調整していくことになりますが、拠点が旭川と札幌とに分れている両者は、大いに相互支援ができるものと考えています。また、道内の各地域においては、その地域に立地する各大学が、その地域の将来を担う若者を育成していくことが極めて重要です。そのことに精力的に取り組んでいる旭川市立大学及び短期大学部との協力関係を通じて、当協会としても地域に対する洞察を一層深めてまいりたいと考えています。

